

〔一〕 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

われわれ「ヒューマン」と完璧な経済人「エコノ」

〔注1〕 パターナリズムを認めない人はたいていこう主張する。人間は高い選択能力をもっていて、すばらしい選択はしていないとしても、ほかの誰かがするであろう選択よりも良い選択をしていることは間違いない、その誰かが政府の人間である場合は特にそうだ――。経済学を学んだことがあるかどうかに関係なく、「私たちの誰もが間違うことなく適切に考えて選択しており、経済学者が示す教科書的な人間モデルに合致する」という「ホモ・エコノミクス」(経済人)の仮定に、少なくとも暗黙のうちに与_くしている人は多いように思われる。

経済学の教科書を見ると、ホモ・エコノミクスは〔注2〕アルベルト・アインシュタインのように考えることができ、IBMのスーパーコンピュータ「ブルージーン」と肩を並べる記憶容量を備え、〔注3〕マハトマ・ガンディー並みに強い意志をもっていることがわかる。本当にそうなのだ。しかし市井の人々はそうではない。現実の人間は電卓がなければ長い割り算に悪戦苦闘するし、ハイグウ_アシヤの誕生日を忘れることもあるし、二日酔いで新年をムカ_イえたりもする。こんな人はホモ・エコノミクスではない。ホモ・サピエンスである。ラテン語の使用を最小限にするため、これから先はこの想像上の種を「エコノ」、^ウ実在する種を「ヒューマン」と呼ぶことにする。

肥満の問題を考えてみよう。アメリカの肥満率はいまや二〇パーセントに達しつつあり、アメリカ国民の六割以上が肥満か太り過ぎだと考えられている。世界全体では太り過ぎの成人は約一〇億人いて、そのうち三億人は肥満である。肥満率は、日本、中国、一部のアフリカ諸国の五パーセント未満から、サモアの都市部の七五パーセント超まで幅がある。世界保健機関(WHO)によると、北アメリカ、イギリス、東ヨーロッパ、中東、太平洋諸島、オーストラリア、中国の一部の地域では一九八〇年以降、肥満率が三倍になっている。肥満が心臓病や糖尿病のリスクを高め、早死にする確率が高いことを示す証拠は数えきれないほどある。これでは誰もが適切な食事(いくつ_{注4}かのナッジ^{注4})を与えることによって生みだされるであろう

結果よりも望ましい食事)を選んでいるとはとてもいえない。

もちろん、良識ある人々は健康だけでなく、味にも注意を払っている。食べることはもともとそれ自身が快楽の源泉である。われわれは太り過ぎの人はみんな合理的に行動していないと主張しているのではない。すべてのアメリカ人、あるいはほとんどすべてのアメリカ人は食品を最適に選んでいるという主張を退けているのである。食事に当てることは、喫煙や飲酒などのリスクを伴う行動にも当てはまる。喫煙や飲酒が原因で毎年五〇万人以上が早死にしている。食事、喫煙、飲酒については、人々の現時点での選択がそれぞれの幸福を増進する最高の手段になっているとはいえない。実際、多くの喫煙者、飲酒者、過食者が第三者にお金を払って、より良い選択ができるように手助けしてもらっている。

これに対して、本書では新たに台頭^Aしつつある選択^Eの科学が基本的な情報源になっている。選択の科学は過去四〇年間の社会科学者によるメン^オミツな調査を基礎としている。こうした研究によって、人々が行う様々な判断や意思決定の合理性に対して、重大な疑問が投げかけられている。エコノとみなされるには完璧な予測をする必要はない(それには全知が求められる)。必要なのはバイアス^(注5)のない予測をすることだ。つまり、エコノは予測を誤る可能性はあるが、予測可能な方向性を系統的に誤る可能性はない。エコノと違ってヒューマンは誤りを犯す。この点を「計画錯誤」を例に説明しよう。計画錯誤とは、計画を実行するのに必要な時間を過度に楽観的に見積もってしまう体系的な傾向を指す。請負業者を雇った際、計画錯誤について知っていたのに、すべてにおいて考えている以上に時間がかかってしまったという経験のある人なら、こう聞いても少しも驚かないだろう。

何百という研究によって、人間の予測にはケツ^カカンがあり、バイアスがかかっていることが確認されている。人間の意思決定もそんなにたいしたことはない。ここでも一つだけ例を挙げて、「現状維持バイアス」と呼ばれる傾向を考えてみよう。現状維持バイアスとは「惰性」のしゃれた言い方である。人はいくつもの理由から現状維持やデフォルト(選択者がなにもしなかったら選ぶことになる初期設定)の選択肢に従う強い傾向を示す(この問題については後で検討する)。

例えば、新しい携帯電話を買うときには一連の選択をする。携帯電話の機能が高まれば高まるほど、背景画面からの呼び出し音、電話をかけてきた相手にボイスメールを送る呼び出し音の回数まで、突きつけられる選択肢は増える。メーカー側

はこうした選択ごとに一つの選択肢をデフォルトとして設定している。デフォルトの選択肢がどのようなものであるかに関係なく、大勢の人がデフォルトに固執することを示す調査がある。着信音の選択よりずっと利害の大きい重要な選択のときでもそうするのだ。

この研究から二つの重要な教訓を導き出せる。一つは「決して惰性の力をあなどってはならない」、もう一つは「その力は利用できる」——である。民間企業や政府当局がある政策のほうがより良い結果を生みだすと考えている場合には、それをデフォルトに選べば結果に大きな影響を与えることができる。後で示すように、デフォルト・オプションを設定するなど、一見するとなんでもないようなメニュー変更戦略は、「貯蓄が増える」「医療が向上する」「患者の命を救う移植手術に臓器が提供されるようになる」といった非常に大きな影響を生みだすことがある。

デフォルト・オプションをうまく設定すると大きな効果が生まれるが、これはナツジが緩やかな力をもっていることを示す事例の一つにすぎない。われわれの定義に従えば、「ナツジ」とは、エコノには無視されるものの、ヒューマンの行動は大きく変えるあらゆる要素を意味する。エコノは主にインセンティブ^(注6)に反応する。政府がキャンディーに課税すると、エコノはキャンディーを買う量を減らす。選択肢を並べる順番のような「関係のない」要因には影響されない。ヒューマンもインセンティブに反応するが、ナツジにも影響される。インセンティブとナツジを適切に配置することによって、人々の生活を向上させる能力が高まり、社会の重大な問題の多くを解決できるようになる。しかも、すべての人の選択の自由を強く主張しながらそうできる。

一つの誤った前提と二つの誤解

選択の自由を支持する多くの人々はバターナリズムをいっさい拒絶し、政府が市民に自分の意思で選択させるようにすることを望む。こうした考え方に基づくなら、できるかぎり多くの選択肢を与えて、最も気に入った選択肢を選ばせるようにすることがヒョウジュン^キ的な政策提言になる。政府の介入やナツジはできるかぎり少なくする。この考え方の長所は、複雑

に入り組んだ様々な問題にシンプルな解が提示されることだ。「選択肢（の数と種類）を最大化しろ、以上！」——である。この政策は教育から処方薬保険プランまで様々な領域で推進されている。「選択肢の最大化」が政策の呪文^{マントラ}になっている分野もある。この呪文に対する唯一^Bの代替策は「画一的アプローチ」と揶揄^{やぶ}される政府命令だとされるときがある。「選択肢の最大化」を支持する人は、自分たちの方針と一律的な命令とのあいだに大きな余地が残されていることに気づいていない。パターナリズムに反対するか反対派を自認し、ナッジに疑いの目を向ける。そんな疑念は、一つの誤った前提^{プレミ}と二つの誤解から生じていると考えられる。

誤った前提とは、「ほとんどすべての人が、ほとんどすべての場合に、自分たちの最大の利益になる選択をしているか、最低でも第三者がするより良い選択ができる」というものである。この前提はどう見ても間違っている。実際、よくよく考えた上でこの前提を信じる人などいないだろう。

チェスの初心者が経験豊富なプレーヤーと対戦すると仮定してみよう。初心者はまさに「選択能力に劣る」という理由で負けることは予測がつく。役に立つヒントがあれば、選択能力はすぐに高まるだろう。多くの分野で一般消費者は初心者であり、そこにモノを売り込もうとする経験豊富なプロが住む世界でやりとりしている。もっと一般的な話をするとき、どれだけ上手に選択するかは経験に左右され、答えは領域によつて違うものになる公算^Cが大きい。人は自分が経験をもち、十分な情報があり、即座にフィードバックを得られる文脈では適切な選択をするといつてよい。一例がアイスクリームの味の選択である。人は自分がチョコレートやバナナ、コーヒー、甘草^{カンゾウ}などが好きかどうかわかっている。ところが、経験がなく、情報が多くなく、フィードバックが遅かったり少なかったりする文脈になると、うまく判断できなくなる。果物がアイスクリームのどちらかを選ぶケース（長期的な効果が表れるまでに時間がかかり、フィードバックが乏しい）や、治療方法や投資の選択肢を選ぶケースがそうだ。多種多様で様々な特徴をもつ五〇種類の処方薬プランを提示される場合には、ちよつとした手助けがあると役に立つだろう。人は完璧な選択をしていないのだとすると、^{注7}選択アーキテクチャーを少し変えれば、人々の生活は（官僚の嗜好ではなく、人々の嗜好を基準に判断して）より良いものになる可能性がある。これから明らかにしていくように、人々の効用を高める選択アーキテクチャーを設計するのは可能なだけではない。多くの場合、簡単にでき

る。

一つ目の誤解は、「人々の選択に影響を与えないようにすることは可能である」というものだ。様々な状況で組織や行為者がほかの人々の行動に影響を及ぼす選択をしなければならぬ場合がある。そうした状況では、なんらかの方向にナッジすることは避けられず、意図的かどうかに関係なく、ナッジは人々の選択に影響を与える。^(注8) キャロリンのカフェテリアが例証しているように、人の選択は^(注9) 選択アーキテクトが選ぶ設計要素に全面的に影響される。もちろん、知らず知らずにナッジしている場合があることは事実である。雇用主が従業員に月一回給与を支払うか、隔週にするかどうかを、ナッジを与えるという意図をいっさいもたずに決めるとする。ところが、隔週で給与をもらうと、給与を三回もらえる月が年二回あるため、貯蓄が予想外に増える、といったケースがそうだ。また、民間組織や公的組織が、^(注10) 無作為に選ぶ、大半の人がなを望んでいるか把握しようとするといった形で、なんらかの中立性を確保しようと尽力することがあるのも事実である。しかし、意図せぬナッジが大きな影響を与えることがあり、そうした中立性に魅力がない文脈もある。本書にはそんな事例がたくさんでてくる。

民間組織についてはこの点を進んで受け入れても、人々の生活を向上させる目的で選択に影響を与える政府の取り組みには猛反対する人もいる。そうした人は、政府は能力が高いわけでも、慈悲深いわけでもない、選挙で選ばれた公職者や官僚は自己の利益を第一に考えたり、利己的な民間団体の偏狭な要求に注意を向けたりするかもしれないと恐れているのだ。われわれもそう危惧している。政府が間違いを犯し、バイアスをかけ、行き過ぎてしまいうリスクは現実であり、ときに深刻であるという点には強く同意する。われわれが命令や要求、禁止よりもナッジを支持するのはそれが一因である。しかし、カフェテリアと同じように、政府はなんらかの起点を示さなければならない（政府がカフェテリアを運営していることもよくある）。これは避けられない。本書で強く主張していくように、政府は自ら定めたルールを通じて日々そうしており、結果的に選択や結果に影響を与えている。この点で、ナッジに反対するのはまったく無意味である。

二つ目の誤解は、「パターナリズムには常に強制が伴う」というものだ。先のカフェテリアの例では、食品を並べる順序を選んで誰にも特定の食品を食べるように強制することはないが、キャロリンのような立場にある人は、われわれが言

う意味でのパターナリズム的な見地から、食品の並べ方を選ぶかもしれない。小学校のカフェテリアでデザートの前に果物やサラダを置き、結果的に子どもたちがリングを食べる量を増やして、スナック菓子を食べる量を減らすように誘導したとしても、誰がそれに異議を唱えるだろう。この問題は、顧客が一〇代の少年少女、さらには大人だと根本的に違ってくるのだろうか。このパターナリズムは強制をいっさい伴わないため、ある種のパターナリズムは選択の自由を強く信奉している人にも受け入れられるはずだと思われる。

本書では、貯蓄、臓器提供、結婚、医療などの様々な領域で、われわれの基本的なアプローチに沿って具体的な提案をしていく。選択の自由を尊重すると強く主張することで、不適切な設計や、さらには不正が横行するよう設計が行われるリスクを減らせるだろう。選択の自由は、ずさんな選択アーキテクチャーが構築されるのを防ぐ最高の安全装置になる。

(リチャード・セイラー、キャス・サンステイーン『実践行動経済学』より)

(注1) パターナリズム —— 強い立場の者が、弱い立場の者の利益のためという理由で介入・干渉すること。

(注2) アルベルト・アインシュタイン —— 20世紀を代表する理論物理学者。

(注3) マハトマ・ガンディー —— 非暴力・不服従を貫いたインド独立運動の指導者。

(注4) ナッジ —— 人々が強制によってではなく自発的に望ましい行動を選択するよう促す仕掛け。

(注5) バイアス —— 偏り・先入観。

(注6) インセンティブ —— 報奨・報酬。

(注7) 選択アーキテクチャー —— 選択肢の設計。

(注8) キャロリンのカフェテリア —— 学校給食サービスの統括責任者キャロリンが、学校のカフェテリアで食品の陳列方法を変えたところ、生徒たちの食品消費量が25%も増減した。

(注9) 選択アーキテクト —— 選択肢の設計者。

2020年度 武蔵野美術大学 造形構想学部 一般選抜 一般方式
国語 (80分)

問一

「台頭」^Aとあるが、「頭」を用いた慣用句として正しくないものを次の中から一つ選べ。

1

- 1 頭が上がらない
- 2 頭をかしげる
- 3 頭が固い
- 4 頭に血がのぼる
- 5 頭を抱える
- 6 頭を冷やす

問二

「唯」^Bとあるが、「唯」の使用例として正しくないものを次の中から一つ選べ。

2

- 1 唯々諾々
- 2 唯我独尊
- 3 唯緒正しい
- 4 唯物史観
- 5 唯心論
- 6 唯美主義

問三

「公算」^Cの言い換えとして、最も適切と思われるものを次の中から一つ選べ。

3

- 1 プロバイダー
- 2 プロパガンダ
- 3 プロバビリティ
- 4 プロフィール
- 5 プロフェッサー
- 6 プロフェッショナル

問四

「無作為」^Dの意味として、最も適切と思われるものを次の中から一つ選べ。

4

- 1 意図的
- 2 計画的
- 3 衝動的
- 4 善意
- 5 達意
- 6 任意

問五

「慈悲」^Eとあるが、「慈」の使用例として正しくないものを次の中から一つ選べ。

5

- 1 慈石
- 2 慈雨
- 3 慈善
- 4 慈父
- 5 慈母
- 6 慈愛

問六

「偏狭」^Fの反対を意味する語として、最も適切と思われるものを次の中から一つ選べ。

6

- 1 安定
- 2 寛大
- 3 執着
- 4 正当
- 5 全体
- 6 中心

問七

「ハイグウ^アシヤ」「ムカ^イえ」「メン^オミツ」「ケツ^カカン」「ヒョウ^キジュン」の漢字と、同じ漢字を含むものを、次の中から一つ選べ。

7

11

ア 1 大都会のイチグウ^ウに生きる

2 神社の長であるグウ^ジ

3 グウ^{ゼン}の出来事

4 昔話にはグウ^ワが多い

5 シユウ^グ政治

6 良いタイグウ^ウを受ける

イ 1 王様のオ^オオセの通り

2 ゲイ^イは身を助く

3 びつくりギョウ^ウテン

4 キン^ガ新年

5 強い者にゲイ^イゴウ^ウする

6 民衆をヨク^アツする

オ 1 オモシ^ロい

2 罪をマヌ^カれる

3 メン^エキ力を高める

4 メン^ボクないとあやまる

5 メン^ルイが好物だ

6 レン^メンと受けつがれた技術

カ 1 地面がカン^ボツする

2 カン^シするための設備

3 カン^ソウした気候

4 親にカン^ドウされる

5 部下のカン^ゲンに惑わされる

6 新人をカン^ユウする

キ 1 ズビョウ^ウを作成する

2 選挙当日にトウ^ヒョウ^ウする

3 ヒョウ^ウシ抜けする展開

4 ヒョウ^ウコウ三七七六メートル

5 世間のヒョウ^ウバンも良い

6 船がヒョウ^ウリユウする

問八

「横^コ行」の読みとして、正しいものを次の中から一つ選べ。

12

1 おう^あん

2 おう^こう

3 おう^ぎょう

4 よこ^あん

5 よこ^こう

6 よこ^ぎょう

問九

「これから先はこの想像上の種を「エコノ」、実在する種を「ヒューマン」と呼ぶことにする」とあるが、「エコノ」もしくは「ヒューマン」の説明として最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

13

- 1 「エコノ」とは、パターンリズム的な行動選択に合わせてつくられた人間モデルである。
- 2 「エコノ」とは、人間は必ずしも最適な選択をするわけではないとみなす人間モデルである。
- 3 「エコノ」とは、経済学を学んだことがある人だけが納得している人間モデルである。
- 4 「ヒューマン」とは、人間はすぐれた記憶力と強い意志をもつとみなす人間モデルである。
- 5 「ヒューマン」とは、人間は高い選択能力をもっているとみなす人間モデルである。
- 6 「ヒューマン」とは、現実の人間が忘れも失敗もすることを前提とした人間モデルである。

問十

「選択の科学^エ」とはどのようなものか。その説明として本文の内容に合致しないものを次の中から一つ選べ。

14

- 1 メンミツな調査を基礎として、人々が行う様々な判断や意思決定の合理性に対して重大な疑問を投げかけ、人間はもともと誤りを犯すものだともみなす科学。
- 2 人はいくつもの理由から現状維持やデフォルトの選択肢に従う強い傾向を示すので、人間の予測にはケツカ
ンがあり、バイアスがかかっているとみなす科学。
- 3 人々の惰性の力を利用して、デフォルト・オプションを設定するなどして、社会に良い影響を生み出すことが
できると考える科学。
- 4 デフォルト・オプションの設定などの「インセンティブ」を利用して、エコノの行動を変えることで、社会
に良い影響を与えようとする科学。
- 5 一見なんでもないようなメニュー変更戦略などの「ナッジ」を利用して、ヒューマンの行動を変え、社会問
題の多くを解決しようとする科学。
- 6 すべての人の選択の自由を強く主張しながら、インセンティブとナッジを適切に配置することによって、
人々の生活を向上させようとする科学。

問十一 「一つの誤った前提と二つの誤解」とあるが、ここでの「二つの誤解」の説明として最も適切と思われるものを次

の中から一つ選べ。

15

- 1 本人にとって最高の選択は自分の選択であるという誤解と、他人の選択に影響を与えないようにすることは可能であるという誤解。
- 2 他人の選択に影響を与えないようにすることは可能であるという誤解と、選択の自由が社会設計の安全装置になるという誤解。
- 3 人に何かをすすめることには常に強制が伴なうという誤解と、選択の自由が社会設計の安全装置になるという誤解。
- 4 本人にとって最高の選択は自分の選択であるという誤解と、人に何かをすすめることには常に強制が伴なうという誤解。
- 5 他人の選択に影響を与えないようにすることは可能であるという誤解と、人に何かをすすめることには常に強制が伴なうという誤解。
- 6 人に何かをすすめることには常に強制が伴なうという誤解と、不適切な設計が行われるリスクを減らせるという誤解。

問十二 本文の内容に合致するものを、次の中から二つ選べ。

16

16

の欄に、二カ所マークすること

1 パターナリズムを認めない人は、「私たちの誰もが間違ふことなく適切に考えて選択している」という「ホモ・エコノミクス」の仮定に暗黙のうちに反対している。

2 肥満が心臓病や糖尿病のリスクを高めることを示す証拠は数えきれないほどあり、アメリカ人の肥満率が高いので、おおくのアメリカ人は食品を最適に選ぶと心がけている。

3 何百という研究によって、人間の予測にはケツカンがありバイアスがかかっていることが確認されているが、その実例として「計画錯誤」と「現状維持バイアス」を挙げることができる。

4 「エコノ」モデルに沿ってインセンティブとナッジを適切に配置することによって、人々の生活を向上させる能力が高まり、社会の重大な問題の多くを解決できるようになる。

5 経験・情報・フィードバックが少ない文脈での選択を考えると、「ほとんどすべての人が、ほとんどすべての場合に、良い選択ができる」という前提はどう見ても間違っている。

6 選択の自由の危険性を強く主張することで、不適切な選択アーキテクチャーや、不正が横行するような選択アーキテクチャー設計が行われるリスクを減らせる。

二二 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

医療事故紛争は、不慮の死や有害事象の発生という形で、その日常とのダンゼツ（注1）が大きい領域であるとともに、一般人と医療専門家という異なるナラテイヴ世界を背景とする当事者が対峙する領域であり、物語と共約不能性を考えるに際し、格好の領域と考えられるからである。

被害者の物語構築

最初に、患者側の物語を取り上げてみる。1時間程度で終わる検査のはずが、有害事象が発生し、何時間もかかった処置の末、死亡したとしよう。人体の構造が一人一人微妙な差異を有している以上、どのような検査も絶対に安全ということはなく、時には予期しない形で血管を傷つけ出血が止まらなくなるといったリスクは、医療者は当然の確率的事象として理解している。そしてインフォームドコンセントの時点で、そうしたリスクについての説明も行うのが普通である。

しかし、そうした極めて小さな確率のリスクを、一つの客観的可能性として聞くことと、実際に遭遇することの間には計り知れない相違が存在する。患者側は、まず、思いもかけない不慮の事態に遭遇して、それまでの日常的物語が打ち碎かれる事態に直面する。「検査を終えたら、帰路には、どこかで家族一緒に食事でもして帰ろう」「一週間後の旅行の準備もそろそろ考えないと」などという将来へ向けた日常的世界の物語は一瞬に消滅し、この新たな事態を改めて理解しなければならなくなる。まず、混乱の中で悲嘆や苦悩といった感情的葛藤が生じる。発生した事態についての医療側の医学的説明など、ほとんど頭に入ることもない。しばしば悲嘆が怒りという形をとって、混乱の中で攻撃的な言葉が紡ぎだされたりもする。時間がたつにつれ、混乱から事態の意味づけが進み、一定の像が結ばれていく。この過程で、「肉親の不慮の死と喪失の物語」「医療事故をめぐる責任の物語」「保険と補償をめぐる物語」などなど、様々な範型的物語が交錯しつつ活用されていく。しかし、これら範型的物語を取り込んだ当事者の語り（注2）は、決して安定的なものではない。

第一に、これらの範型的物語相互に矛盾や衝突が存在しうる点である。愛する者を失った被害者にとって、第一の問題は

その喪失の悲しみであり、おそらくこの「喪失の物語」は、多くの人々に共有可能なものとして、とりあえずは受容される。この物語は、さらに「医療ミスと責任の物語」として展開していくことが多い。他方、「保険と補償をめぐる物語」は、その後の生活の維持のために必須であったとしても、反面、「肉親の死を金銭にかえるのか」というネガティブな印象を与えかねないリスクをもつ。また被害者自身も被害が金銭的に評価されることについては大きなイワカンをもつだろう。

こうした中で、おそらく「喪失の物語」が、事故後の世界認識では圧倒的な重要性を持って表出されることになる。もちろん、それは被害者が意図的な選択を行っているというよりも、無意識的な物語構築の結果である。この「喪失の物語」という範型的ナラティブは被害者の想いの受け皿として機能すると同時に、他方で、個々の文脈の中でかけがえのない一回起性の事象として生成する被害者の悲嘆の表現を型にはめてしまう。個々の被害者の語りは似通っているものの、その背後にある個別の文脈を反映した想いや感情はひとつひとつ多様であり、表出された語りを越えて存在している。この語りの向こうにある「語りえない想い」の存在は、後述するように、物語を書き換えていくリソース^Aとなり、紛争解決の対話過程で大きな意味を持つ。ここでは、「喪失の物語」のような範型的物語に、一方では支配され、ある意味では活用しつつ、なお、そこに回収しきれない個別の「語りえない想い」が被害者の中に存在することを確認しておく。

さらに、多くの被害者にとって、補償の問題や法的請求の物語は、感覚的に、副次的なものにすぎない。ただ、「保険や補償の物語」は、副次的意味合いではあっても併存し、「喪失の物語」との間でキンチョウ^E関係を孕む^は。こうした矛盾は、金銭賠償の点だけでなく、医師が謝罪している際、なお「喪失の物語」に基づく非難^Bを繰り返すことと、「謝罪するものに対し過度の攻撃性は示すべきでない」といった日常的規範の物語とが抵触するなど、様々な次元で見られる。このように紛争状況では、実は、当事者の語りそのものの中に「共約不能」な複数の物語が胚胎^はされているのである。

第二に、これら範型的物語自体、時代や状況によって異なる相対的^Cなものであることにも留意しておく必要がある。たとえば、出産は比較的最近まで、人間にとって極めて危険な営みであった。新生児、乳児の死亡率は高く、妊婦にとってもいわず命がけの営みであり、命を落とすこともまれではなかった。しかし、医学の発展により、現在、我が国の産科医療は、世界有数の安全性を誇るまでになっている。しかし、出産時の事故をめぐる訴訟や争いは、それに反比例するかのよう

加している。すなわち「出産は命がけの営みである」と見るかつての範型的物語に代わって、「出産は安全であり、正常に生まれるのが当然」との範型的物語が支配するようになる中で、事故が発生した際に、「喪失の物語」から諦念^Dへという流れではなく、「喪失の物語」から「ミスと責任の物語」、そして正当な要求の表出へという物語構築の流れに変容してきているのである。

こうして被害者は、まずその感情から発し、多くの人々に共感される「喪失の物語」を基盤に、紛争の流れの中で「医療ミスの物語」、さらには「補償」「法的請求」の物語をも抱え込み、医療側の物語と接することになる。対話^オする相手が、相手方医療者であるか、家族であるか、あるいは研究者であるかによって、その語りは、しばしば矛盾さえはらむ多様性を示すことになる。

医療者の物語構築

医療者側は、患者側とは異なる範型的物語に囲まれている。もちろん、一人の人間として「喪失の物語」は共有可能としても、患者側にはない範型的物語がそこには影響してくる。またその物語はより複雑なものとなる。

第一に、医学の専門知の物語である。発生した有害事象について、その医学的因果関係や経過につき、専門家として共有される知の体系の中に位置づけ理解する認識の枠組みが作用する。ミスが明らかなる場合とはかく、ミスがあったか否か、ミスと有害事象に因果関係があるか否かは、医療者にとっては、当然ながら、医学的にケンシヨウ^カされるべき課題であると認識され、事実医学的知識を動員した物語が構築されていく。もちろん、すべてが説明されつくすわけではないにせよ、一定の蓋然性^Eを前提とした医学的枠組みからする「事故の医学的物語」が構築される。

第二に、やや異なる位相の問題として、「医療の現場の物語」「医師の営みをめぐる物語」が存在する。患者側と違って、医療者は多くの症例に接し、多くの死や事故に接している。患者側にとって非日常である「死」は、医療者にとっては「日常の風景」ですらある。また医療は、不確実性を内包しており、一定の割合で防ぎようのない有害事象が発生することも知悉^シしている。こうした中で、患者側の「喪失の物語」に一定の共感を示しつつも、「医療ミスの物語」とは異なる「医療の

不確実性」「医療の限界性」といった物語が動員され、その認識を形作っていくことになる。また、現在の「医療現場の多忙性」や「医療者の不足」といった「医療現場の一般的物語」もこれらの認識の基盤に内包されていく。

第三に、「病院組織の物語」もそこに影響する。これは個々のアクターにより内容は異なる。管理者の立場に立つ院長、事故を起こした若い医師の将来を心配する上級医、病院に迷惑をかけることを意識する当事者の医師、それぞれがそれぞれの組織の物語の中で、事故発生後の現実把握の過程で影響を受けることになる。

事故物語をめぐる共約不能性

以上のように、医療事故をめぐる紛争状況にあつて、患者側と医療側は、そこで参照する範型的物語に大きな差異が存在することが分かる。言うまでもなく、医学的知識もなく、医療の現場の日常的物語も共有しない患者側には、医療側の見ている現実、そのままには目に映らない。たとえば、医療側がたとえセイジツキに隠さず、ごまかさず、発生した有害事象につき情報の提供と説明を行ったとしても、またその際、患者家族のために自身の心の動揺を抑えて、プロフェッションとしての責任を果たすべく努めて冷静に話そうとしたとしても、患者側には「難しい専門用語でごまかされている」、「人が死んでいるのになぜこんなに冷静でいられるのか、モノのようにしか患者を見ていなかったのではないか」と、逆に疑念をもつて理解されるかもしれない。患者側は、当事者以外、誰にも共有不能な「喪失の物語」「ミスと責任の物語」に引きつけつつ、これら医療者の語りを自らの物語の中に独自の仕方で組み入れていく。

逆に医療側は、この譲渡不能な被害者当事者の悲嘆と苦悩を、当然ながら共有できないまま、医学的物語、医療の日常の物語の観点から、患者側に理解を求めようと試みる。医学の不確実性や、事故の不可避性の説明を伴い構築される「事故の物語」は、肉親を喪った「喪失の物語」とは、やはりずれざるをえない。

そもそのゲームのルールとしての範型的ナラティブが一致しない以上、また譲渡不能な「喪失」という体験が偏在している以上、どこまで行っても埋め得ない共約不能な溝が存在することは否定できない。

しかし、共約不能性は、紛争当事者の間に存在するだけではない。実は、患者側も、医療側も、それぞれが描く「事故

の物語」それ自体の中に、そもそも共約不能性は胚胎されている。先にみたように、「喪失の物語」と「補償という物語（被害は金銭によって償われる）」は、患者自身の中で、不協和音を奏でていく。また、一般的な関係性に関わる典型的物語に影響され、「これまで親身にみてくれた医師の責任を追究する行為などではいけないのではないか」という葛藤も生まれる。家族内で微妙な見解の相違も生まれてくる。その中で「事故の物語」は共約不能な要素を抱え込んだまま、当事者を安定した物語から程遠い不安定な状態に置いたままにするのである。

医療者側も、人間としての被害者への共感、苦悩と、医療者として有する事故をめぐる「医学的物語」、さらに「病院組織の関係性」に起因する物語など、それぞれが時に先鋭な矛盾さえ含む形で混在している。医師の側も、その「事故の物語」は、やはり安定した物語からはほど遠く、共約不能な視点の中でゆらぎ、苦悩を深めることになる。

物語の共約不能性は、このように個人の間だけでなく、そもそも物語を紡ぐ個人内部の「語り」のなかにも内包されているのである。これを内的共約不能性と呼ぶことができる。

(和田仁孝「ナラティヴの交錯としての紛争」(『物語りと共約幻想』所収)より)

(注1) ナラティヴ —— ここでは「物語」という意味。

(注2) 研究者 —— 研究を専門とする医師

(注3) プロフェッション —— 神に誓って人のために尽くす職業。

問一 「リソース」と同じ意味で用いられるものとして、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

- 1 再利用 2 再生利用 3 拒絶 4 資源 5 削減 6 本質

問二

「非難」の「非」を用いた熟語として正しいものを次の中から一つ選べ。

- 1 非定
- 2 非岸
- 3 非常
- 4 非認
- 5 非肉
- 6 非判

18

問三

「相対的」の反対を意味する語として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

- 1 絶対的
- 2 個別的
- 3 比較的
- 4 客観的
- 5 積極的
- 6 常識的

19

問四

「諦念」の意味として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

- 1 ゆだん
- 2 こうかい
- 3 いかり
- 4 あきらめ
- 5 さげすみ
- 6 ねたみ

20

問五

「蓋然」の反対を意味する語として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

- 1 当然
- 2 必然
- 3 自然
- 4 天然
- 5 漠然
- 6 全然

21

問六

「専門」の「門」を用いた四字熟語として正しいものを次の中から一つ選べ。

- 1 前代未門
- 2 門外不出
- 3 会社訪問
- 4 門題意識
- 5 門答無用
- 6 愚門愚答

22

問七

選べ。

23

27

「ダンゼツ」^ア「イワカン」^ウ「キンチョウ」^エ「ケンシヨウ」^カ「セイジツ」^キの漢字と、同じ漢字を含むものを、次の中から一つ

ア 1 ダンカイ的な進歩 2 ダンガイ裁判が行われる 3 ダンケツして行動する

4 ダンゴウして解決する 5 ダンジキの修行をする 6 ドクダンジヨウ

ウ 1 イギヨウを成しとげる 2 イシツな感性の持ち主 3 イシン伝心

4 イゾンしすぎは良くない 5 事件のケイイを聞く 6 イホウな取引

エ 1 キンキに触れてはならない 2 キンコツ隆々 3 キンサの勝利

4 キンシユク財政 5 しみじみとキンセンに触れる 6 キンベンな人

カ 1 非常灯のテンケン 2 シンケンな表情 3 質素ケンヤク

4 ケンビキヨウを覗く 5 ケンアクな雰囲気 6 ケンセツテキな意見

キ 1 セイカクの不一致 2 シヨウジキな人 3 チユウセイ心の持ち主

4 願いがジヨウジュする 5 セイチ巡礼の旅 6 セイヤクを交わす

問八

「償^カわれる」の「償」の読みとして、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

28

1 つぐな 2 おぎな 3 にな 4 あがな 5 むく 6 やしな

問九

「これら範型的物語を取り込んだ当事者の語り^イは、決して安定的なものではない」とあるが、なぜそのような不安定さが生じるのかの説明として**正しくないもの**を次の中から一つ選べ。

29

- 1 愛する者を喪った悲しみは、どれほど「保険と補償をめぐる物語」によって展開したとしても癒されること
がないから。
- 2 愛する者を喪った責任を医療側に対し追及する気持ちと、肉親の死を金銭にかえたくない気持ちの間での葛藤があるから。
- 3 被害者たちの想いの受け皿である「喪失の物語」では、個々の被害者の語りの背後にある多様な想いが回収できないから。
- 4 謝罪している医師に非難を繰り返すことは、「謝罪するものに対し過度の攻撃性は示すべきでない」という日常的規範に反するから。
- 5 かつての「出産は命がけの営みである」が現在の「安全な出産が当然」に代わったように、支配的な物語自体が変化したから。
- 6 事故が発生した際に、「喪失の物語」から諦念へ向かうのではなく、「ミスと責任の物語」へという流れが支配的になったから。

問十

「対話する相手が、相手方医療者であるか、家族であるか、あるいは研究者であるかによって、その語りは、しばしば矛盾さえはらむ多様性を示すことになる」とあるが、「対話する相手」が「研究者」だった場合の、「医療者側の語り」と、それに対する「患者側の語り」の説明として最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

30

- 1 医療側が一人の人間として「喪失の物語」に共感を示しても、患者側は「肉親の死を金銭にかえたくない」と反発する可能性がある。
- 2 医療側が一人の人間として「喪失の物語」に共感を示しても、患者側は「難しい専門用語でごまかされている」と感じる恐れがある。
- 3 医療側が医学的知識を動員してケンショウした結果を伝えても、患者側は「肉親の死を金銭にかえたくない」と反発する可能性がある。
- 4 医療側が「医療現場の多忙性」「医療者の不足」を伝えても、患者側は「難しい専門用語でごまかされている」と感じる恐れがある。
- 5 医療側が「医療現場の多忙性」「医療者の不足」を伝えても、患者側は「肉親の死を金銭にかえたくない」と反発する可能性がある。
- 6 医療側が医学的知識を動員してケンショウした結果を伝えても、患者側は「難しい専門用語でごまかされている」と感じる恐れがある。

問十一

「内的共約^ク不能性」とあるが、個人内部の「語り」のなかに内包されている「内的共約不能性」に対し、個人と個人の間を生じる「共約不能性」とはどういうものか、本文全体の趣旨をふまえた説明として最も適切と思われるものを次の中から一つ選べ。

31

- 1 医学的因果関係や経過につき、専門家としての知の体系の中に位置づけ理解する認識の枠組みと、現場の医師としての認識の枠組みの矛盾やずれ。
- 2 「医療の不確実性」「医療の限界性」といった患者側の視点と、「医療現場の多忙性」「医療者の不足」といった医療側の視点のずれ。
- 3 管理者の立場に立つ院長、事故を起こした医師の将来を心配する上級医、病院への迷惑を意識する当事者の医師の間の見解の相違。
- 4 「喪失の物語」「ミスと責任の物語」を共有しない医療側と、医学的物語、医療の日常の物語を共有しない患者側との見解の相違。
- 5 「親身にみてくれた医師の責任を追及する行為などとしてはいけないのではないか」という葛藤や、家族内での微妙な見解の相違。
- 6 人間としての被害者への共感と、医療者としての「医学的物語」「病院組織の関係性」に起因する物語との間の矛盾やゆらぎ。

問十二 本文の内容に合致するものを、次の中から二つ選べ。

32

32

の欄に、二カ所マークすること

1 医療事故紛争は日常とのダンゼツが大きい領域であるとともに、一般人と医療専門家という異なる物語世界を背景とする当事者が対決する領域と考えられる。

2 患者側は、不慮の事態に遭遇して混乱の中で悲嘆や苦悩といった感情的葛藤が生じるが、医療側の医学的説明によって冷静さを取り戻す。

3 「喪失の物語」は被害者たちの想いの受け皿であると同時に、かけがえのない一回起性の事象として生成する被害者の悲嘆の表現の受け皿でもある。

4 比較的最近まで新生児、乳児の死亡率は高く、妊婦にとっても出産は命がけの営みだったが、昔から妊婦たちはそのことを認識していなかった。

5 患者側にとって非日常である「死」は医療者にとっては「日常の風景」なので、患者側の「喪失の物語」に対して医療側は全く共感できない。

6 医学の不確実性や事故の不可避性の説明を伴う医療側の物語は、患者側の当事者としての悲嘆と苦悩の物語とは、やはりずれざるをえない。

2020年度 武蔵野美術大学 造形構想学部 一般選抜 一般方式
国語 (80分)

次の〔三〕の問題はクリエイティブイノベーション学科を受験する者、またはクリエイティブイノベーション学科と映像学科を併願する者のみ解答すること。

〔三〕 次の文章は『源氏物語』橋姫巻の一節である。薫中将は京を離れて宇治の地を訪れ、友人である八の宮の留守中に、その邸で宮の姫君を見出す。これを読んで、後の間に答えよ。

あなたに通ふべかめる透垣(注1)の戸を、すこし押し開けて見たまへば、月をかしきほどに霧りわたれるをながめて、簾(注2)を短く捲き上げて人々ゐたり。篳篥(注3)に、いと寒げに、身細く萎えはめる童一人、同じさまなる大人などゐたり。内なる人、一人は柱にすこし隠れて、琵琶を前に置きて、撥(注4)を手まさぐりにしつゝゐたるに、雲隠れたりつる月のはかにいと明くさし出でたれば、「扇(注5)ならで、これしても月はまねきつべかりけり」とて、さしのぞきたる顔、いみじくうたげにほひやかなるべし。添ひ臥したる人は、琴の上にかたぶきかかりて、「入る日をかへす撥こそありけれ、さまざま思ひおよびたまふ御心かな」とて、うち笑ひたるけはひ、いますこし重りかによしづきたり。「およはずとも、これも月に離るるものは」など、はかなきことをうちとけのたまひかはしたるけはひども、さらによそに思ひやりしには似ず、いとあはれになつかしうをか。昔物語などに語り伝へて、若き女房などの読むをも聞くに、かならずかやうのことを言ひたる、さしもあらざりけん(注6)と憎く推しはからるるを、げにあはれなるもの隈ありぬべき世なりけりと心移りぬべし。

(『源氏物語』橋姫巻より)

(注1) 透垣 —— 板や竹を隙間をあけて編んで作られた、内側が透けて見える垣根。

(注2) 扇ならで、これしても月はまねきつべかりけり —— 『摩訶止観』「月重山に隠れぬれば、扇を挙げてこれに類

ふ(月が重なる山々に隠れてしまったので、月のかわりに扇を掲げて月のたとえとする)」に基づく表現。「扇ではないが、同様に弧の形をした琵琶の撥でも、雲隠れた月を誘い出すことができた」の意味。

(注3) 入る日をかへす撥こそありけれ —— 「沈む太陽を中空に呼び戻す撥があるとは聞くが」の意味。

(注4) およはずとも、これも月に離るるものは —— 「違っているととしても、これ(＝撥)も月と縁がなくもない」の意味。

(注5) あはれなるものの際ありぬべき世なりけり —— 「美しいものは隅の方に隠れて存在している世の中だったのだなあ」の意味。

問一 傍線部ア・イの文中での意味として最も適当と思われるものを次の中からそれぞれ一つ選べ。

33

34

- ア にほひやかなるべし
- 1 高貴な印象である
 - 2 美しいにちがいない
 - 3 中將に気づいたらしい
 - 4 器量がよかったのだろう
 - 5 威厳があるようだ

イ よしづきたり

- 1 説教じみていた
- 2 いいわけがましかった
- 3 風情があった
- 4 いやみだった
- 5 不吉な感じがした

問二

傍線部 i ~ iv のうち推定の助動詞 (X) と完了の助動詞 (Y) の組み合わせとして最も適当なものを次の中から一つ選べ。

35

- | | | |
|---|----------|----------|
| 1 | X i | Y ii |
| 2 | X i | Y iii |
| 3 | X i | Y iv |
| 4 | X iii | Y ii |
| 5 | X iii | Y iv |

問三

傍線部ウ「かやうのこと」の内容の説明として最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

36

- 1 撥を使って隠れてしまった月を誘い出すことができるということ。
- 2 沈んだ太陽を中空まで呼び戻すことのできる撥があるということ。
- 3 美しい姫君は決して他愛ないおしゃべりをしないのだということ。
- 4 この世の片隅には美しい姫君たちが隠れて住んでいるということ。
- 5 昔の物語に美しい姫君は隠れ住むものだと書いてあるということ。

問四

傍線部エ「さしもあらざりけん」と憎く押しはからるる」の現代語訳として最も適当なものを次の中から一つ選べ。

37

- 1 そうにちがいがなかっただろうと、中将は不快に推測なさる
- 2 それではいけなかっただろうと、姫君は不快に推測せずにはいられない
- 3 それはそれで問題があると、姫君は不快に推測なさる
- 4 それからどうなったのだろうと、中将は不快に推測せずにはいられない
- 5 そうとはかぎらなかっただろうと、中将は不快に推測される

問五

本文の内容に合致するものを、次の中から一つ選べ。

38

- 1 薫中将はのぞき見をして、身近に仕える女の童と他愛ないおしゃべりする八の宮の一人娘を見出した。
- 2 薫中将が見出した姫君は、八の宮が他の女君との間でもうけた娘達とは似ても似つかないほど美しかった。
- 3 薫中将の年若い妻は八の宮の手紙を読み、その姫君はきつと美しいにちがいないとつねづね言っていた。
- 4 昔物語では姫君は決まっておしゃべり好きなものだと言われていたが、薫中将はそれを不快に思っていた。
- 5 樂しげに他愛ない会話を交わしている八の宮の姫君たちに薫中将は惹きつけられ、深い感銘を受けた。

2020年度 武蔵野美術大学 造形構想学部 一般選抜 一般方式
国語 解答例

[一]

問一	1	②
問二	2	③
問三	3	③
問四	4	⑥
問五	5	①
問六	6	②
問七	ア 7	③
	イ 8	⑤
	オ 9	⑥
	カ 10	①
	キ 11	④
問八	12	②
問九	13	⑥
問十	14	④
問十一	15	⑤
問十二	16	③ ⑤

[二]

問一	17	④
問二	18	③
問三	19	①
問四	20	④
問五	21	②
問六	22	②
問七	ア 23	⑤
	ウ 24	⑥
	エ 25	④
	カ 26	①
	キ 27	③
問八	28	①
問九	29	①
問十	30	⑥
問十一	31	④
問十二	32	① ⑥

[三]

問一	ア 33	②
	イ 34	③
問二	35	①
問三	36	④
問四	37	⑤
問五	38	⑤